



7月  
14日

広島・長崎に向かって

## 国民平和大行進

毎年8月の広島・長崎に向かい、全国から核兵器廃絶を願って行われている平和行進。今年も群馬から引き続きだ平和行進の横断幕を持って皆野ヤオコ前の国道沿いでスタンディングでアピールしました。コロナ以来スピーチしながらの行進は行わず、静かに原爆写真等を掲げ、行き交う車や町

の方に核兵器廃絶を訴えました。例年梅雨明け前で雨の中が多かったのですが、今年は曇り空で過ごしやすい気温の中、皆野、長瀬から28名もの方々が参加しました。

ロシアによるウクライナ侵略の収束も見通しが立たない中、核兵器の使用さえ現実的な恐怖をもって世界を脅かしています。戦後78年、被爆者の皆さんが大変な状況の中、自分達の様な被害を世界の誰にも味あわせたくない核兵器廃絶を訴え続けています。アメリカにも被爆者はいて、広島・長崎への爆弾を製造した工場の風下に住んでいた方達です。核兵器観の違いはありますが、「地球を何百回も爆破できるほどの兵器が存在する事は馬鹿げている」と。核兵器禁止条約が国連加盟国の間で広がっていますが、唯一の戦争被爆国の日本が背を向けています。日本政府こそ核兵器廃絶の先頭に立って欲しいと切に願います。

7月  
11日

## 自治体要請キヤラバン

毎年、県の社会保障推進協議会主催で、各自治体と社会保障に関する懇談を行っています。事前に医療、介護、障害者施策、子育て支援、生活保護等について町からの回答をいただき、質問等を出し合っ

て懇談します。今年も町の担当課長や係の方と秩父社保協、介護事業所の方や医療生協の方と回答していただいた件への質問や要望、日頃感じている事や、身の回りの率直な質問等を出し合い、住みやすい町になるようにとの思いで話し合いました。

国民健康保険については他市に比べて子育て世代の負担軽減がなされている事や、役場の努力にもかかわらず特定健診の受診率が低い悩み等、現場のお話も聞けました。子育て支援



て支援については小学校の給食費無償化等進んだ施策もあります。町の広報でも、新しく子育て応援の子ども食堂等に関する活動も呼びかけられています。連日コースで大雨災害が報じられていますが、災害弱者の避難等についても話し合いが行われました。

## 消費税のインボイス制度導入で

### 1千万人が廃業倒産の危機に

この4月には5千品目の食品の値上げ、6月から電気料金、10月には郵便料金も値上げ予定。押し寄せ

ていない実態があります。声優業者は年収300万円以下が72%、年収100万円以下が半数です。インボイス制度の導入で2割の人が「廃業を検討」と回答。

る値上げラッシュの中、販売価格に消費税を転嫁できた中小企業はわずか14%と言われています。一人親方・エンタメ業界・非正規雇用などの個人や中小零細業者は、力関係もあり、きちんと消費税の転嫁ができ

世界に広がった物価高騰で、消費税II付加価値税を引き下げ国民の負担軽減を図った国は103か国にも及びます。ところが、(裏面へ続く)

日本は消費税の引下げどころか消費税の増収を狙っています。

日本国内での取引にはすべて消費税がかかります。

- ① 売上げに消費税を加算する
- ② 商品の量を消費税分減らす
- ③ 材質を消費税分落とす
- ④ 消費税分値下げをした後で転嫁する

## インボイス中止・消費税の減税を!

など、売り手と買い手の力関係で大きく転嫁が異なります。年収1千万円以下の中小零細業者は、消費税の納税は免除されてきました。

### ■消費税は益税か?

年収の多少に関係なく、ガソリン代や電気代など同じように消費税はかかっています。国も裁判で「受取る消費税分は「商品の対価」であり益税ではないと判断が確定しています。

国へインボイス中止・延期の意見書が431自治体から上がっています。

消費税納税額は、「売上げに係る消費税」仕入れ経費に係る消費税」です。

今年10月からのインボイス導入で仕入れ経費に係る消費税を差引く際、税務署から課税業者にしか与えられない「業者」ことに背番号のついた適格請求書(インボイス)を使う必要があります。「課税業者になら

## 国神小学校

### 創立150周年式典に出席して

7月15日、記念式典が行われ出席しました。

国神小学校の歴史を年表でみると、明治6年に金崎学校(長興寺)、大巻学校(薬王寺)開設。明治22年学制改革により国神村立国神小学校となる。その後、日野沢、金沢小学校と統合。

式典は、実行委員長、校長、町長、議長、教育長などの挨拶の後、国神小卒業生の設楽さん(バナナマン)からビデオメッセージ。6年生による国神小学校の歴史が紹介されました。

この子ども達が、大きく成長して欲しいと出席して感じました。



### 知子のひとりごと



常山知子

全盲の淑則先生があの時へと旅立った。61歳でした。多くの教え子達や支えて下さった人達に見送られて・・・淑則先生と最後にあつたのは今年5月頃。「リルの家」と名付けられた小屋で、ベッドに横たわり「もう足も手も動かない。目も見えない。でも話すことはできる」と力を振り絞って、今の体の状態や「リルの家」のこれからを語っていた。

私と淑則君とはいとこ同士。家は近かったけれど年が離れていた。一緒に遊んだ記憶はない。姉さん達と同じに学校の先生になったんだ・・・そんな記憶でした。そして私が皆野に住むようになった頃から淑則君の存在は大きくなった。絶望のどん底から這い上がり、長瀬中学校へ赴任。そんな時、新井家のいとこ会があった。「春からクラス担任をすることに。今、子ども達の名前などを覚えるのに必死」とうれしそうに話していた。「光を失って心が見えた」淑則先生からのメッセージだ。

新しい時代を前進させる

市民と野党の共闘を!

生活・法律相談

お気軽にご相談ください

常山知子 電話62-6733